

県立大との連携強化

やまなし

医療最前线

《 63 》

る。

なじをテーマに医師・看護師ど共
同研究も行う予定だ。
「臨床現場と研究機関それぞれ

病院が看護学実習の場を提供

し、看護の専門性を高めるために
看護師がさらに大学院で学ぶ」。

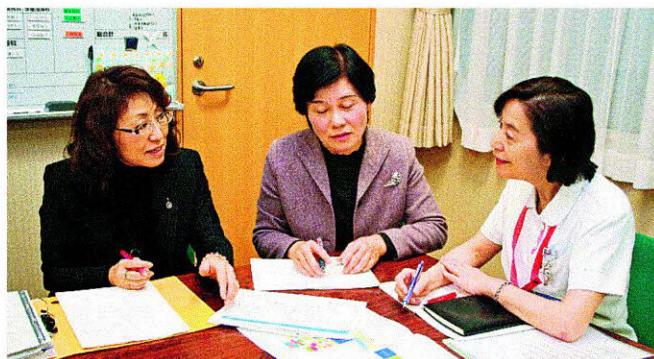
看護師の育成と看護の質向上とい
う共通目標のもと、交流を図つて
きた県立中央病院と県立大。新年
度からは、医師が臨床教授として
大学院の教育に携わり、共同研究
を行うなど、さらなる連携強化を
目指す。

看護学部がある県立大池田キャ
ンパスと県立中央病院は、荒川を
挟んで500㍍ほどの距離。立地
条件も生かし、看護師を育成する
場、看護を実践する場として互い
に交流を深めてきた。

同大看護学部長の流石ゆり子教
授によると、学生の実習先の約8
割が同病院。病院、大学はそれぞ
れ実習委員会を設置し、よりよい
実習環境の提供に努めているほ
か、定期的に「連絡会議」を開い
てさまざまな情報交換を行ってい

同大は3年ほど前から実習病院
の看護師に、中心的に学生の指導導
に当たつてもらう臨床講師を任命
し、実習指導体制の充実を図つて
きた。来年度からは、同大大学院
が県立中央病院の医師8人を臨床
教授・准教授に任命し、大学院で
講義をしてもらう。「慢性疾患患
者へのセルフケアサポートのシス
テム構築」「周産期の疼痛管理」

同病院の植田美由紀看護部長も
「大学での基礎教育、病院での現
任教員の連携強化を進めることで
人材育成を図りたい」と話す。ま
た学生時代から現場をより身近に
感じ、看護の魅力を実感
することで看護師確保や
離職防止にもつなげたい
考えだ。



来年度の連携について話し合う(写真右から)県立中央病院の植田美由紀看護部長、県立大の流石ゆり子教授、遠藤みどり教授
=甲府・県立中央病院

現場で働く医師や看護
師にとつても研究機関で
ある大学との交流はモチ
ベーションを高め、キャ
リアアップにつながるメ
リットがある。付属では
ない独立した大学と病院
の連携は全国でも珍しい
という。新たな連携のモ
デルケースとして注目さ
れそうだ。

＝第2、4木曜日に掲
載します